

エゴマの生産安定への取組 (売木村)

■背景とねらい

(有)ネットワークうるぎでは数年来、遊休農地の解消と労力分散を兼ねて、エゴマ栽培と搾油したオイルの販売に取り組んでいるが、発芽率の低下により、良質苗が確保できず、計画した生産量を達成できなかった。そこで良質苗の確保と生産量の向上を図る取組を支援した。

■本年度の取組と成果

1 良質苗確保の取組

種皮色が黒系と白系の2系統について、発芽率を調査した結果、黒系は42%、白色は89%であった。そこで、発芽率の高い白系をは種したところ発芽のそろいも良く、良質苗が十分確保でき、計画をやや上回る面積に定植することができた。

2 生産安定に向けた取組

定植後のエゴマの収量低下の要因として雑草繁茂があったので、除草の省力化も兼ねて、トウモロコシ用の穴あきマルチを利用した栽培に取り組んだところ、雑草対策となり、収量が向上した。

また、野菜の移植機を利用した定植を行ったところ、実用的な植え付け精度が確保され、定植作業の省力化が図られた。



発芽試験の様子（右上）と栽培状況

■今後の課題と対応

生産面では安定してきたが、製品化したエゴマオイルは、新型コロナの影響により販売が不振となった。今後はネットやSNSなども活用した“売木村産のエゴマオイル”の魅力発信や販促活動を支援する。
(阿南支所：南島 誠)

源助大根の振興支援（泰阜村）

■背景とねらい

泰阜村では遊休農地の増加が問題となっているが、有効な対策が見い出せていない。

そこで村は遊休農地対策を兼ね、源助大根を特産品にすべく振興に取り組んで5年目となる。販路を確保し、栽培者も増え、認知度も上がり、信州の伝統野菜への登録に向けた動きもある。

そこで、源助大根生産組合を対象に、品質向上対策を中心に源助大根の振興を支援した。

■本年度の取組と成果

昨年問題となった裂根、空洞症等の対策に取り組んだ。裂根は収穫遅れなどが発生を助長することから、今年は収穫適期とされる60日前を目安に播種するよう指導した。また、空洞症は多窒素などが発生を助長することから、土壌のpHとECの分析結果に基づいて基肥や追肥等施用の目安を示した。

これらを踏まえて栽培に取り組んだ結果、裂根や空洞症は軽減したが、生育期の想定を上回る高温により発生がみられたほ場もあった。



■今後の課題と対応

関係機関のPRもあって販路は徐々に広がり、栽培拡大による遊休農地解消が期待される。今後、新規栽培農家の掘り起しも行い、需要に応える必要がある。また栽培モデル園を設置し、施肥量、栽植距離、播種から収穫までの日数などを検討し、より高品質な栽培方法を確立する。

なお、信州の伝統野菜への登録に向けた活動は次年度に行う。
(阿南支所：原田 広己)

長野式電気柵の普及推進

■背景とねらい

管内の令和2年度の農林業被害推定額は、約7千2百万円で年々減少傾向にあるが、その1/4以上はサルによる被害である。そこでサルによる農業被害を軽減するため、サルにも対応した防護柵として普及技術となっている「長野式電気柵」のモデル展示を3か所で行った。

■本年度の取組と成果

1 モデル展示は設置研修会の開催

5月7日：飯田市山本の野菜畑における研修会には農家など8名が参加した。

5月20日：西部地区（阿智村浪合）の野菜畑における研修会には農家2名が参加した。参加者の一人は女性だったが、「女性でも簡単に設置できる」との評価であった。

5月26日：南部地区（泰阜村）の野菜畑における研修会には農業委員を中心に11名が参加し、「既存設置されている防護柵を補強する方法」としてモデル展示を行った。農家は高さ1.5mのシカ・イノシシ防護用のネットとその下に2段の電気柵を設置していたが、毎年サルの被害に遭っていた。そこで、上部に2段の電気柵と網目16mmのポリエチレン製ネットを増設した。

2 モデル展示ほの成果

いずれのモデル展示ほでも無被害で収穫を終えることができた。特に泰阜村の畑はサルの常襲地帯だったので、その効果を実感いただいた。

また、鳥獣害対策講座や農業委員会などを通じて成果の周知に取り組んだところ、質疑なども多く出され、受講者らの関心は高かった。

■今後の課題と対応

広域的な防護柵の設置がほぼ終了しており、今後は個々の農地ごとの侵入防止対策も重要となることから、防護柵の効果的な設置を中心に普及を図る。本取組は、中山間地農業ルネッサンス推進事業を活用している。（阿南支所：原田 広己）

ハクビシンに対応した電気柵の設置講習会を開催（豊丘村）

■背景とねらい

近年、南信州管内で野生鳥獣による果樹への被害が多発している。果樹栽培が盛んな豊丘村では特にハクビシンによる被害がみられることから、中型獣に効果的とされる電気柵のモデル設置に取り組んだ。

■本年度の取組と成果

1 電気柵の設置

豊丘村農業技術者連絡協議会主催のもと、毎年ハクビシン被害に遭っている村内農家のぶどう栽培ほ場でハクビシンの特性や侵入方法についての講習と電気柵の設置体験を行った。当日は5名の果樹栽培農家が参加し、今回設置した電気柵は、埼玉県農業技術研究センターが開発した電気柵「楽落くん」を参考に、防草シートによる障壁と電気柵を組み合わせで作成した。

2 設置効果

電気柵設置後、ハクビシンの侵入及び果実への被害は確認されなかった。講習会を受け、参加農家1名が実際に所有する園地へ設置した。設置初期は園地への侵入が見られたが、防草シートと通電線の間隔を調整したところ、被害が無くなったことが分かった。



電気柵設置の様子

■今後の課題と対応

今年度の活動では、電気柵の設置によりハクビシンの侵入、被害が確認されず一定の効果が認められた。今後も講習会を開催し、継続的な効果の検証と普及に取り組んでいく。本取組は、中山間地農業ルネッサンス推進事業を活用している。

（地域第一係：倉科 妙香）